整形外科

【1】研修プログラムの目標と特徴

整形外科の研修カリキュラムは､1～3 ヶ月のbasic course と4～6 ヶ月のadvanced course（主に整形外科志望者）を準備した。各コースは救急医療、慢性疾患、基本手技、医療記録に別れており到達目標を設定している。外傷学の基礎と臨床を修得し、救命救急処置が可能となり、各種整形外科疾患の診断と治療の概略を把握することを目標とする。

【2】研修目標

『Basic course』　募集人員：1時期1名　研修期間：1～3 ヶ月の到達目標……◎
『Advanced course』　募集人員：1時期1名　研修期間：4～6 ヶ月の到達目標……○

［救急医療］

A. 一般目標:GIO(General Instructional Objective)

運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得する。

B. 行動目標:SBOs(Specific Behavioral Objectives)

1. ◎多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。
2. ◎多発外傷の重症度を判断できる。
3. ◎多発外傷において優先検査順位を判断できる。
4. ◎骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
5. ◎開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
6. ◎神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる。
7. ◎脊髄損傷の症状を述べることができる。
8. ◎神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。
9. ◎骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる。

［慢性疾患］

A. 一般目標:GIO(General Instructional Objective)

適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得する。

B. 行動目標:SBOs(Specific Behavioral Objectives)

1. ◎変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
2. ◎関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍のX 線、MRI、造影像の解釈ができる。
3. ◎上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。
4. ◎腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。
5. ○神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる。
6. ○関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる。
7. ◎理学療法の処方が理解できる。
8. ○後療法の重要性を理解し適切に処方できる。
9. ○一本杖、コルセットの処方が適切にできる。
10. ◎病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。
11. ○リハビリテーション・在宅医療・社会復帰などの諸問題を他の専門家、コメディカル、社会福祉士と検討できる。

［基本手技］

A. 一般目標:GIO(General Instructional Objective)

一般目標：運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を修得する。

B. 一般目標：GIO(General Instructional Objective)

1. ◎主な身体計測（ROM、MMT、四肢長、四肢周囲径）ができる。
2. ◎疾患に適切なＸ線写真の撮影部位と方向を指示できる（身体部位の正式な名称がいえる）。
3. ◎骨・関節の身体所見がとれ、評価できる。
4. ◎神経学的所見がとれ、評価できる。
5. ○一般的な外傷の診断、応急処置ができる。
   ⅰ）成人の四肢の骨折、脱臼
   ⅱ）小児の外傷、骨折、肘内障、若木骨折、骨端離開、上腕骨顆上骨折など
   ⅲ）靭帯損傷（膝、足関節）
   ⅳ）神経・血管・筋腱損傷
   ⅴ）脊椎・脊髄外傷の治療上の基本的知識の修得
   ⅵ）開放骨折の治療原則の理解
6. ○免荷療法、理学療法の指示ができる。
7. ○清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺・注入、小手術、直達牽引ができる。
8. ○手術の必要性、概要、侵襲性について患者に説明し、うまくコミュニケーションをとることができる。

［医療記録］

A. 一般目標：GIO(General Instructional Objective)

一般目標：運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を修得する。

B. 一般目標：GIO(General Instructional Objective)

1. ◎運動器疾患について正確に病歴が記載できる。
   主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー、内服歴、治療歴
2. ◎運動器疾患の身体所見が記載できる。
   脚長、筋萎縮、変形（脊椎、関節、先天異常）、ROM、MMT、反射、感覚、歩容、ADL
3. ◎検査結果の記載ができる。
   画像（Ｘ線像、MRI、CT、シンチグラム、ミエログラム）、血液生化学、尿、関節液、病理組織
4. ◎症状、経過の記載ができる。
5. ○検査、治療行為に対するインフォームド・コンセントの内容を記載できる。
6. ○紹介状、依頼状を適切に書くことができる。
7. ○リハビリテーション、義肢、装具の処方、記録ができる。
8. ◎診断書の種類と内容が理解できる。

経験目標

・Basic course

1. 入院患者の受け持ち 5例以上
2. 多発外傷患者の診療 2例
3. 脊髄損傷患者の診療 1例
4. 開放骨折の診療 1例
5. 末梢神経損傷の診療 1例
6. 骨．関節疾患感染症の診療 1例
7. 変形性膝関節症の診療 1例
8. 変形性股関節症の診療 1例
9. 慢性関節リウマチの診療 1例
10. 骨、軟部腫瘍の診療 1例
11. 膝関節穿刺 5例

・Advance course
Basic course に加えて

1. 入院患者の受け持ち 10例以上
2. 硬膜外ブロック 3例
3. 関節造影 2例
4. 脊髄造影 2例
5. 成人の四肢骨折，脱臼
   大腿骨頚部骨折 2例
   手関節骨折 2例
   関節脱臼（股、膝関節） 1例
6. 小児外傷
   肘内障 2例
   肘周辺骨折 2例
7. スポーツ外傷
   膝前十字靭帯損傷 2例
   膝半月板損傷 2例
8. 骨代謝疾患 1例
9. 化学療法 1例

【3】方略(Learning Strategies)

【週間予定表】

勤務時間は磐井病院研修医規定に準ずるが、教育関連行事には必ず出席し、その他は整形外科研修プログラムに従う。

月	08:00 病棟回診(全員で)、週末の入院患者の検討	09:00 病棟業務、外来、手術
火	08:30 リハビリカンファレンス(第2、第4週)	09:00 病棟業務、外来
	16:00 術前のインフォームドコンセント等に同席	
水	08:00 勉強会	09:00 定期手術日:指定する手術に参加
木	08:00 病棟回診(全員で)	09:00 病棟業務、外来
金	09:00 病棟業務、外来、手術、検査	
土	可能な限り救急患者への対応(慣れればファーストコール)	
日	可能な限り救急患者への対応	

＊日中の急患への対応、ギプスカット、ギプス巻きなどには積極的に参加

【指導体制】

指導医師のもとでマンツーマンの指導を受ける。
外来では各診察医に陪席し診察手順、診断、治療を研修する。
病棟では整形外科医の指導を受ける。
電気生理、リハビリテーション、画像検査研修はマンツーマンで指導を受ける。

【4】教育評価(Educational Evaluation)

研修開始時に自己評価表を渡し、各プログラム終了時に自己評価をさせる。指導医は自己評価表を点検し研修医の目標達成を援助する。

【整形外科臨床研修評価表】*はbasic course 研修医の到達評価項目
A：到達目標に達した B：到達目標に近い C：到達目標に遠い

*1) 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる
*2) 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
*3) 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる。
*4) 脊髄損傷の症状を述べることができる。

*5）多発外傷の重症度を判断できる。
*6）多発外傷において優先検査順位を判断できる。
*7）開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
*8）神経・血管・筋腱の損傷を診断できる。
*9）神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。
*10）骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる。
*11）変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
*12）関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍のX 線、MRI、造影像の解釈ができる。
13）神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる。
14）関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる。
15）一本杖、コルセット処方が適切にできる。
16）一般的な外傷の診断、応急処置ができる。
17）免荷療法、理学療法の指示ができる。
18）清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺・注入、小手術、直達牽引ができる。
*19）運動器疾患について正確に病歴が記載できる。
*20）運動器疾患の身体所見が記載できる。
*21）検査結果の記載ができる。
*22）症状、経過の記載ができる。
*23）診断書の種類と内容が理解できる。
24）検査、治療行為に対するインフォームド・コンセントの内容を記載できる。
25）紹介状、依頼状を適切に書くことができる。
26）リハビリテーション、義肢、装具の処方、記録ができる。

【5】指導責任者および研修指導医・上級医

指導責任者：中山　明里
研修指導医、上級医：小川　和浩、菅原　恒、千田　優子

指導医 上級医名	役職	卒業年	主な資格など	専門分野	臨床研修指導医
中山　明里 （なかやま　あかり）	整形外科長	1986 年	日本整形外科学会整形外科専門医 医学博士	股関節・関節鏡	○
小川　和浩 （おがわかずひろ）	整形外科医長	2003 年	日本整形外科学会整形外科専門医	股関節・外傷	○
菅原　恒 （すがわら　こう）	整形外科医長	2007 年	日本整形外科学会整形外科専門医	外傷・骨粗鬆症	○

【6】2016年実績

総手術件数　　468 件